

Title	第15回ピア・スーパービジョン報告まとめ(聖学院大学総合研究所人間福祉スーパービジョンセンター主催(SWnet(聖学院ウェルフェアネット)共催))
Author(s)	山田, 裕太
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.24No.3, 2015.3 :59-60
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5275
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

聖学院大学総合研究所 人間福祉スーパービジョンセンター主催
(SWnet (聖学院ウェルフェアネット) 共催)
第15回ピア・スーパービジョン 報告

2015年2月14日(土) 聖学院大学にて、第15回ピア・スーパービジョンが開催された。ピア・スーパービジョンとは保健・社会福祉現場や一般企業において、対人援助の仕事をしている人たちが、実践に必要な“かかわり”について見つめ直し、お互いに知り合い、情報交換を行うための研修と交流の場である。今回のプログラムは本学人間福祉学科の卒業生が中心になって組織した福祉のネットワーク“SWnet”による企画運営と聖学院大学総合研究所の人間福祉スーパービジョンセンターとの共催により行われた。当日の参加者は15名であった。

今回は福祉の現場で働く卒業生4名による報告を聞いた後、参加者一同、1つのグループのなかで、ピア・スーパービジョンを行った。



まとめ

今回のピア・スーパービジョンでは、4名のシンポジストと参加者一同が集い、それぞれの葛藤や思いを共有する時となった。今回のプログラム全体を通じて、あらためてソーシャルワーカーとしての“かかわり”と“自己決定”の原理の大切さに気づくことができた。シンポジストを含め、参加者の職域は介護現場、NPO、病院、社会福祉法人、企業、学校など、多岐に亘っている。後半の総括での柏木昭先生や助川征雄先生、牛津信忠先生のコメントにもあった「原理、原則に立ち返っていく」姿勢や利用者や家族の置かれている状況（人と状況の全体性）を「鳥の目のように俯瞰（ふかん）して視ていく」視点は、ソーシャルワーカーとして仕事をしていく上で共通の基盤となっていくのではないだろうか。今回のプログラムからの”学び”や”気づき”を忘れずに実践に活かしていくためにも、人間福祉スーパービジョンセンターと“SWnet”はともに相互的に支え合っていく役割を担っている。

（冒頭・まとめのみ文責：山田裕太 [やまだ・ゆうた] 聖学院大学勤務。2001年度 聖学院大学人間福祉学科卒業）